

質疑及び一般質問

令和5年9月25日、26日、28日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質疑を行いました。
各議員の質疑の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!
下の各議員の横にあるQRコードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることが出来ます

9月25日(月)



井下 泰伸 自由民主党
(伊勢崎市)



▶第83回国民スポーツ大会における目標・競技力向上について

Q 6年後に迫った群馬県開催の国民スポーツ大会について、どのような成績や活躍を目標と考え、どのように競技力向上を図っていくのか伺いたい。

A 知事

県民にスポーツの持つ力を感じてもらおう絶好の機会であり、優勝を目指したい。選手強化の方法は、選手の引き抜きのような古い慣行ではなく、時代に沿ったやり方である「群馬モデル」で戦略的に行う。ジュニアの発掘・育成に力を入れ、医科学データに基づいた効果的な選手育成に取り組んでいる。全国大会や国際大会で活躍できるよう、中長期的な育成基盤をしっかりと作っていききたい。



後藤 克己 リベラル群馬
(高崎市)



▶再エネ導入による医療・福祉施設などのレジリエンス強化について

Q 医療・福祉施設などのレジリエンス強化に向けた再エネ導入を後押しする仕組みを電力価格高騰対策・再エネ導入支援事業補助金の対象に加えるべきと考えるがどうか。

A グリーンイノベーション推進監

医療・福祉施設など人の命に関わる施設への再生可能エネルギー設備や蓄電池の導入は、災害時の電源として活用できることから、これらの施設の事業継続性を高め、ひいては地域のレジリエンス強化にも資すると考える。これらの施設に対する再生可能エネルギー設備等の導入を後押しする仕組みについては、医療・福祉施設を所管する健康福祉部などとともに検討してまいりたい。



金井 康夫 自由民主党
(沼田市)



▶沼田・利根地区新高校における魅力ある学校づくりについて

Q 進学重視型単位制^(※1)の導入経緯や利点およびグローバル化が進む中で新たな時代を切り拓く力をどう育成するかの方向性を伺いたい。

A 教育長

進学重視型単位制は、ハイレベルな進学をサポートし、新たな時代を切り拓くための資質、能力を育成するために導入した。利点として、生徒が自らの興味・関心や進路希望に合わせ、多様な選択科目から時間割を設定でき、より探究的な学びを深められることなどが挙げられる。生徒の海外留学への機運を高める取組などと合わせ、新たな時代を切り拓く力を育成する一助としていきたい。



金沢 充隆 令明
(多野郡・藤岡市)



▶中高生の自転車事故防止対策について

Q 当事者となる中高生の意見を自転車事故防止対策へ反映させることが重要と考えるが、対策の取組状況について伺いたい。

A 県土整備部長

自転車事故防止対策の検討過程で県内高校生を対象にアンケート調査を実施した結果、自転車やドライバーの交通安全意識の向上を求める意見が多かったことを踏まえ、これまでの取組に加え、自動車教習所などでの安全教育や知事によるドライバー向けの動画配信などの新たな取組を実施している。今後も広く県民の声に耳を傾け、効果的な自転車事故防止対策に取り組んでまいりたい。

9月26日(火)



追川 徳信 自由民主党
(高崎市)



▶農業の明るい未来に向けた担い手の育成について

Q 農業従事者の減少が続く中、群馬県の農業を持続可能なものとしていくためには、担い手の育成が重要と考えるが、現状と今後の取組について伺いたい。

A 農政部長

群馬県では、これまで経営感覚に優れた担い手育成を目的に、事業計画や販売戦略に関する講座、先進事例視察の実施、農業経営相談所の設置などにより経営支援を行ってきた。今後も、担い手が持続的に発展していけるよう、セミナーの開催や専門家の派遣を継続していく。さらに、スタートアップ企業と連携し、「オープンイノベーション」による担い手の育成にも取り組んでまいりたい。



水野 俊雄 公明党
(前橋市)



▶利根川自転車道のナショナルサイクルルートの指定について

Q ナショナルサイクルルートの指定について、現在の検討状況はどうか。



A 知事

利根川自転車道は、県内区間の延長では指定要件を満たさないため、下流側に接続する埼玉県内の自転車道の活用を視野に、今後の関係機関との協議に向けた検討等を進めている。環境が整えば、指定要件である官民連携による協議会の設立に向け取り組むよう担当部に指示したが、民間の盛り上がりポイントとなるため、民間がどこまで主体的に関わってもらえるのかなど、様々な観点で検討してまいりたい。



鈴木 数成 自由民主党
(前橋市)



▶県道前橋玉村線(朝倉工区)について

Q 県が整備を進めている県道前橋玉村線(朝倉工区)の進捗状況について伺いたい。

A 県土整備部長

「朝倉工区」については、現在、前橋市が整備を進めている「江田天川大島線」から県道高崎駒形線に至る約2.8kmの未整備区間で、4車線のバイパス整備を進めている。このうち、「前橋赤十字病院」の開院に合わせ、暫定的に3車線で供用開始した「江田天川大島線」から病院までの約1.4kmの間について、工事を進めており、今年度末の完成を予定している。引き続き、事業を推進してまいりたい。



大沢 綾子 日本共産党
(高崎市)



▶子育てに係る経済的負担の軽減について

Q 給食費無料化に取り組む市町村が増える中、市町村によって格差がある。県として市町村への財政支援に取り組んでいくことが重要と考えるがどうか。

A 知事

市町村への財政支援については、学校給食費の無料化にかかる費用を、県が全部を負担しても、市町村と県とで負担しても、将来に渡って大きな財政負担を伴うことになるため、現実的ではないと判断している。学校給食費の無料化については、国でも動きがあり、市町村からの要望も強まっているので、可能な範囲で国に対して要望してまいりたい。

9月28日(木)



矢野 英司 自由民主党
(富岡市)



▶富岡製糸場における生糸生産の動態展示について

Q 世界遺産としての価値をさらに高めるため、また群馬県蚕糸業の振興に繋げるためにも、富岡製糸場で生糸生産の動態展示をしてはどうか。

A 地域創生部長

実際に繭から糸をひく機械が動き、生糸生産の様子を見学できる動態展示が可能となれば、世界遺産としての価値はさらに高まると考える。現在、国や富岡市と連携し、動態展示について、実現可能性の調査研究を行っている。富岡製糸場の活性化に向けて、何ができるのかを検討するため、プロジェクトチームを立ち上げたところである。今後、新たな価値の創出に繋がる提案を行っていききたい。



本郷 高明 リベラル群馬
(前橋市)



▶「COCOLOプラン^(※2)」の推進について

Q 群馬県の公立小中学校等における不登校児童生徒数の推移及び直近の状況はどうか。また、学びの多様化学校の設置に向けた取組について伺いたい。

A 教育長

令和3年度の県内公立小中学校等における不登校児童生徒数は、小学生が1,284人、中学生が2,497人であり、小学校では9年連続、中学校では8年連続で増加となっている。「学びの多様化学校^(※3)」については、県内では現在設置例はないが、県教育委員会としては、設置について、特別の教育課程の編成や教員配置等の様々な課題解決に向けて市町村とともに検討していききたい。



入内島 道隆 自由民主党
(吾妻郡)



▶自立分散型社会について

Q グローバリゼーション^(※4)と自立分散型社会は果たして調和するのか。

A 知事

グローバリゼーションと自立分散型社会は両立できるものである。現代においては逃れることのできないグローバリゼーションと上手く付き合いながら、繁栄の道を探っていくことが、群馬県に与えられたミッションだと考える。群馬県が目指す自立分散型の社会をつくることは、地球環境に優しい群馬県の実現と新たな成長の芽を生み出すこと、両方に繋がるものと考えている。



久保田 順一郎 自由民主党
(邑楽郡)



▶千代田町と熊谷市を結ぶ利根川新橋の架橋について

Q 千代田町と熊谷市を結ぶ利根川新橋の架橋に向けた今後のスケジュールについて伺いたい。



A 県土整備部長

今後の事業化に向けた調査着手について、埼玉県と合意が得られたこと、また、国土交通省が新橋検討エリアを進める堤防強化対策事業と協調し、新橋の建設位置を早期に決定していく必要があることから、本議会に補正予算案として、測量調査費を計上したところである。提出した補正予算案が議決された後、速やかに測量に関する地元説明を行った上で、現地の測量調査に着手する予定である。

※1 進学重視型単位制…大学入試等に対応した多様な選択科目から、子どもたちの興味・関心や進路希望に合わせて、自分で時間割を作成して学習できるシステム
 ※2 COCOLOプラン…国が取りまとめた「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」に関するプランの名称
 ※3 学びの多様化学校…不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施することができる「不登校特別校」の新たな名称
 ※4 グローバリゼーション…人・物・情報などが、国家・地域の境界を越えて、地球規模に拡大・一体化することにより、様々な変化が生じる現象のこと